

1993年 4月

(平成 5年)

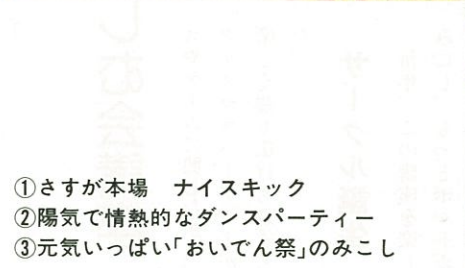
第11号

姉妹都市協会ニュース

発行／中津川市姉妹都市
友好推進協会

中津川市かやの木町2-1
中津川市役所秘書広報課内
0573(66)-1111 内線304

サッカー・サンバ 国技で生き生き



①さすが本場 ナイスキック
②陽気で情熱的なダンスパーティー
③元気いっぱい「おいでん祭」のみこし

楽しく国際交流会

中津川市制40周年記念

市内在住、在勤のブラジル人と市民との交流のかけ橋として、昨年六月七日「国際交流会」が開催されました。日系従業員の家族や多くの市民が集まり、サッカーとダンスパーティーを楽しみながら交流を深めました。

この国際交流会は、姉妹都市友好推進協会、外国人労働者を受けいれている企業団体・中津川雇用問題研究会、中津川青年会議所などが中心となって組織した「中津川ファミネット」(酒井久一会長)が市制四十周年を記念して開催しました。

朝八時三十分公募で集まった市内企業や高校などサッカー愛好者の選抜・合同チームと日系外国人チーム計八チームが集まり、各チーム別に色分けしたTシャツを着て、さっそく試合に臨みました。トーナメント方式で、勝ちにこだわらず友好第一にゲームが進められましたが、サッカーの本場だけにブラジル人選手の好プレーが目立ち、随所で拍手を浴びていました。

盛りあがったサッカー大会

八月十三日のおいでん祭には、みこし「中津川ファミネット」が初参加しました。日系従業員三十人も加わって市内目抜き通りを練り歩き、市民の拍手を浴びていました。

真夏の夜のおいでん祭



3

に高度なテクニックを披露して試合を盛り上げました。

決勝戦では、日系ブラジル人従業員で編成された美濃工業チームが、市民合同チームを3-1で下して優勝しました。

情熱的だったダンスパーティー

大会終了後、日系従業員の家や応援の市民も加わって、ダンスパーティーが開かれました。

第10回岐伯青年親善交流団来市



小林市長、杉本協会長と記念写真に収まる交流団のみなさん

昨年の七月 九日・十日の両日、八木沼良憲氏を団長とする一行五人が来訪され、市内の青年たちとの交歓会や市内産業施設の見学を行いました。二年に当地を訪れていることもあり、その時建てられた来訪記念碑の前で、さっそく記念写真に収まっていた。その後、市内企業へ産業施設の視察に出かけ、最新の自動車用電子機器の説明に感嘆したり、ブラジルの同胞の職員を見て歩き、なつかしように懇談しました。夜は高砂殿で、市内で働くブラジル人、今までに親善交流団の一員としてブラジルを訪れた青年、中津川ファミネットの会員や姉妹都市友好推進協会の役員など三十人が集まって、歓迎会を催しました。翌日の十日には、次の訪問地へ、関係者の見送りを

受けて出発されました。リアネさんは、県内でブラジルと、姉妹提携している他の市町村を表敬訪問した後、再び中津川市へ戻り、七月二十一日まで姉妹都市友好推進協会々々の杉本さんや後藤五男(中一色町)さん、筒井友之(千日林)さん宅でホームステイをされ、日本の家庭の味を満喫しました。

職場での懇談



元中津川市長

元五位 小池保氏が逝去

元市長の小池保氏が、平成五年一月四日、心筋をたたえ二月十三日快晴こうそくのため死去された。氏の生前の功績は、昭和三十五年には、レジストロ市との姉妹都市提携を実現し、国際交流の先鞭をつけられた。昭和六十二年六月には、日伯姉妹都市国際外交への貢献が認められ、ブラジル連邦政府公認の最高勲章グラン・クルスが総合社会教育会から贈られています。



姉妹都市提携調印後のレ市長と小池さん

元市長の小池保氏が、平成五年一月四日、心筋をたたえ二月十三日快晴こうそくのため死去された。氏の生前の功績は、昭和三十五年には、レジストロ市との姉妹都市提携を実現し、国際交流の先鞭をつけられた。昭和六十二年六月には、日伯姉妹都市国際外交への貢献が認められ、ブラジル連邦政府公認の最高勲章グラン・クルスが総合社会教育会から贈られています。



ブラジル政府最高勲章を受けたありし日の小池さん

遠くて近い国 ブラジル



ブラジルに親しむ会講座の杉村先生から、ブラジルを紹介していただきました。赤道を横切つて南下し、ブラジルのサントス港に入港する。実に四十五日が過ぎる。遠い所に初めてブラジル

に渡る。ハワイに到着する。と、既に一週間が過ぎ、その後ロサンゼルス、パナマ運河を通過して、赤道を横切つて南下し、ブラジルのサントス港に入港する。実に四十五日が過ぎる。遠い所に初めてブラジル

う言われるのか、しばらくの間疑問に思っていたが、色んなブラジル人と語り合っている内に、次のことが分かって来た。一九〇八年、第一回の農業移住が始まって以来、渡伯された日本人が、言葉、習慣の全く違う異国で、頑固なまでに持ち続けられてきた大和魂によるものか、とこの時こそ「自分日本人である」といふ誇りと、責任の重大さを痛感したことはありませぬ。

ブラジルは、自然条件はつきりしません。こういう恵まれた自然条件の中で住んでいる訳ですから、自ずと、のんびりとした性格となり、気持も大ききように思っています。海抜は七五〇メートルと高く、夏、直射日光は強いですが、湿度が低いので家の中では涼しく、日本の夏の夜のような、蒸し暑さはほとんどありません。冬は最低十五度位で、水が凍ることもなく、雨も降りません。一年中果物は豊富で、安価であり、四季は日本のようには、

変平穏で平和な雰囲気を感じています。敬愛と調和は、路上や神社、工場内で見合った給料、高い購買力を実現し、その結果、更に生産を刺激する。そして全ての産業において労働力が必要となる。企業主は、細かい心使いと注意をもって日本人、外国人の区別なく雇って来ています。今までに知る機会があった観光地について、述べた観光地は常に自然美を持ち、特に日本庭園の美しさは格別で、平和と調和のとれた歴史的な美しさを感じます。日本に住む外国人にとって大切な事は、この自然との完全な調和と、人間としての素晴らしい価値を発見し、見習うことだと思えます。その人間の価値が一番大切な事は、全ての人々に尊敬され、共同社会のためになる事です。このような価値観は、今日西洋には無いと思えます。日本にいるブラジル人が、この良い価値感をブラジルに持って行き、ブラジルをもっと秩序ある国にしていきたいと思えます。



協会長の挨拶で始まった講座

昨年十一月十九日からトガル語会話のほか、ブラジルの生活、歴史や料理などの講座に意欲的に参加した。講師は今回から、杉村先生にお願いし、ブラジル男性が女性と同居した場合のマナーなど、大変面白い話もあり、和気あいあいのうちに講座が進められ、最終日には、この講座も昭和五十八年に発足して今年で十回目となったところから、第一回より連続して受講してきた西戸妙子(駒場)さんと、牛丸朝子(昭和町)さんに協会の杉本会長から記念品を贈り、これをたたえました。

サークル誕生

毎年のこの講座を楽しみにし、もっとポルトガル語を勉強したいという皆さんによって、サークルが生まれました。次のとおり毎月行いますので、参加希望の方は、連絡下さい。

レジストロの協会長 隅田氏の死を悼む

今年一月二日、製茶工場や印刷会社を設立し、今日に至ってレジストロ市の中津川市姉妹都市友好推進協会長、レジストロの日本人会々長をはじめ、文化体育協会々長、商工会議所会頭などを勤め、同地方の長老として、昭和五十六年と平成二年に、親善訪問団の一員として来津されたこともあり、両市の友好親善の推進に尽力されていまして、



都市提携10周年記念歓迎会の隅田さん(中央)

市内の企業で働く、日系ブラジル人のルイ池上ロッセルさんから、日本滞在の感想が寄せられましたのでご紹介いたします。一九九一年四月日本に到着し、今まで知らなかった素晴らしい新世界で、色々な事が学べると思っています。ここ中津川は、ブラジル人の労働力を必要とするため、日本の習慣、日本人の物の考え方に身近に接する機会が与えられました。白い雪を眺め、初めて私のほおに降った雪の心地よい感じを忘れることが出来ません。熱帯地方であるブラジルでは出来ないスポーツ、スキーを可能にし、私に初めてスキーの楽しさを教えてくれました。ここでは、共同社会のルールを守る必要を自覚している市民、そして、隣人や友人を自分の兄弟

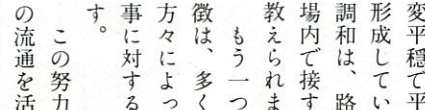
サークル活動も生まれました
第10回ブラジルに親しむ会講座

ブラジル移民80周年祭

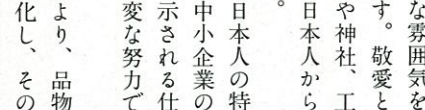
岐阜県人のブラジル移民八十年という記念すべき年を迎えて、式典を十月十日催すのはじめ、多岐な行事を計画しています。協会の中津川市へも招待が来ておりますので、訪問団を組織する計画を進めています。なお、詳細については、決定次第お知らせいたします。

日本人の価値観

ルイ池上ロッセル



▲初スキーを楽しむ



▶自然との調和を大切にするルイさん

平成5年度会員募集

中津川市姉妹都市友好推進協会では、ただいま会員を募集しています。会費は個人 一口 千円、法人 一口 壹万円、団体 一口 五千円です。申込用紙は、市役所秘書課に、市役所秘書課内(T.E.L. 66-1111 内線306)